

和泉都議「お台場噴水計画」水道給水停止などで論戦！



和泉なおみ都議は11月18日都議会公営企業会計決算特別委員会の各局ごとの質疑を終えた最終質疑となる「全局質疑」で日本共産党都議団を代表して質問にたち、小池知事が去る9

月議会で表明した「お台場噴水計画」と、近年急増している水道給水停止問題などをとりあげて都の姿勢を追及しました。

26億円かけて「世界最大級」の噴水計画 「小池都政は光をあてる方向を間違えている」

「お台場噴水計画」は九月都議会で小池知事が突然発表したもので、噴水の高さが一五〇メートル、長さが二五〇メートルという「世界最大級」の噴水計画です。

建設費用が二六億円で毎年の維持管理費が一・五億円から二億円かかると見込まれています。

和泉都議は「都立海上公園は都民全体の共有財産であり、東京都海上公園条例には、計画内容も管理運営についても都民参加がすすめることが

書かれているにもかかわらず、何ら都民の意向が反映されていない」と追及しましたが、都はこれに対してまともな回答ができませんでした。

和泉都議はさらに昨年九月と十一月に都が二回にわたって噴水デザイン計画作成を企業に国内最大級として検討委託していたのに、いつの間にか「世界最大級」に変わった。ちょうどその時期に小池知事がCOP28のためにアラブ首長国連邦のドバイに出張していて、そこで高さ一五〇メートル、長

さ二五〇メートルの「ドバイ・ファウンテン」を見たからではないか、と小池知事に迫りましたが、小池知事は答えませんでした。

和泉都議は「九・五億円投入して都庁舎に光を投影するプロジェクト、今度は二六億円投入する噴水計画をすすめる小池都政は、光を当てるところが間違っている。都政が光を当てるべきは都民のくらしではないか」と厳しく批判しました。



高止まりしている給水停止件数 利益を急増させている請負企業 「都は本来の公営企業に返るべき」

水道の給水停止増加問題は、和泉都議が一昨年から継続して追及している問題です。

なぜ給水停止件数が増えているかという水道料金が払えない人たちのお宅に訪問して生活状況や健康状態をつかみつつ、必要に応じて福祉局につないできた「訪問催告」をやめ、郵送による催告にしてしまったためです。

都は給水停止が増えたのは一時的な過渡的現象だ、といい逃れをしましたが、

和泉都議の質問により令和五年度（二〇二三年度）も給水停止件数は一六万六〇〇〇件と、高止まりしていることが明らかになりました。

和泉都議は「増加は一時的なものではないことは明らか」とし、都はこの状況を分析・検討すべきと主張しました。

そのうえで和泉都議が明らかにしたのは、営業所業務を請負っている東京水道株式会社は前年比二倍、令和二年度比では十倍にもなっている事実で

す。

さらに東京水道株式会社は民間企業とはいえ、都が八十%出資し、その売り上げの九三%は都の業務の請負いであり、売上原価、販売費、管理費の内訳を公開すべきだ、と迫りました。

そして訪問催告をはじめ公共の福祉の増進という公営企業の本来の目的に都がたち返り、東京水道株式会社への包括委託を検討しなすべしと、と強く求めました。

驚くべき小池知事の姿勢 答弁にたたず 逃げの一手

驚くべきことに和泉都議のこうした都の姿勢に対する質問に小池知事は逃げま

わり、一回も答弁に立ちませんでした。

例えばある高齢女性の様子がおかしいと、パトロールの警官が気づいて医療機関に連れてい

ったところ軽度の熱中症だったことがわかり、医者が「水をたくさん飲むように」とすすめました。するとその女性が「嫌がらせされている」と返答したので。結局その女性が認知症のため水道料金を滞納して給水停止になっていて、このことを理解できていなかったことがわかった、

(裏面へつづく)

日本共産党 都議会議員
和泉なおみの
さわやかレポート
NO. 99 2024. 12

和泉なおみ事務所 葛飾区東立石 3-25-8
TEL 5671-0850 / FAX 5671-0851